

【日記】

- 二時間目は英語だった。ここでも教室に入った瞬間とても喜んでくれた。質問もたくさんしてくれた。やはり日本人は珍しいのか。ここでもまた手作りのお菓子と飲み物をもらってしまった。この高等部ではありえない歓迎の熱、とても嬉しかった、と言いたいところだったが、あとで話を聞くとクラス内に誕生日の子がいてその子のために作っていたそう。なにはともあれ、仲間を大切にする姿勢、見習いたいと思った瞬間である。内容は英語でプレゼンをするというもの。「途中でもし質問があれば途中でもいってね!」とってくれたり、イタリア人は気配り上手かもしれないと思った。日本人はおもてなしの心を持つと海外で評価を受けているが、もはや日本人の心の方が冷たいことがわかった。初対面の人に対するこのフレンドリーさは日本人には持ち合わせていない。この時日本に帰りたくなかった。そして、この逆ホームシックは最終日まで続くのであった。

三、四時間目は体育だった。授業はバスケットボールを行なった。結論から言うとなんかのユルさだった。和気あいあいとした感じで展開される授業は、休み時間のような感じだった。ここでも周りの生徒たちは一つ一つ丁寧に教えてくれた。終わりもなんとなくで終わった。ここで一つ感じたのはイタリアの高校生はチャレンジして失敗することに関してとても寛容であり、称賛するという姿勢があるということ。これがあつたからこそ、この10日間僕は積極的になれたと思う。(3年男子)
- 放課後は、ミラノに日本語のコンペティションを見に行きました。私達が知らなかったり忘れていたりするような日本についての問題、特に歴史について多く出され、それにみんな答えていて、自分たちの日本人としての知識不足が痛いほど感じられました。そして同時にこんなにも日本について興味を持って歴史まで学んでくれる子達がいることに驚きました。言語ならわかりますが、日本人でも忘れがちで、知っていても生活には使わない歴史まで学んでいるのは本当にすごいなと思い、日本の文化を伝える役割である私達が逆にこんなにも日本文化に興味を持ってきているのだと日本文化の魅力を感じさせられた気がしました。(2年女子)
- 終日 Milan に行きました。レニャーニ高校から引率の先生が二人ついてきてくれて、説明を丁寧にしてくれました。Milan の街は、東京とはひとあじ違って、歴史を感じられる壮大な建築物が印象的でした。

最初に、お城のようなところへ行きました。とても広く、たくさんの展示物がありました。その後は、いくつかの教会を回りました。普段目にしていないプロテスタントではなくて、カトリックの教会で、とても新鮮でした。特に、スタンドガラスがきれいでした。鮮やかで、美しかったです。(2年女子)

- 朝早くの電車に乗り、ヴェネツィアに行きました。ヴェネツィアの駅を降りた瞬間、夢の世界にいたようで、興奮しました。駅の出口の前にはさっそく川があり、ゴンドラに乗っている人もいました。川の水の新鮮な匂いがして、気持ちよかったです。橋を何度も渡りながら歩いて、ドゥカーレ宮殿などがある、町の中心に向かいました。

歩いている時、どの方向を見てもきれいな花が飾られている窓がある、素敵な建物ばかりでした。宮殿や教会では、付き添ってくださったレニャーニ校の先生 2 人が建物の歴史などの解説をしてくれました。建築物は一つ一つが丁寧につくられていて、色合いや絵画も立派で迫力がありました。古代の人々がどれだけ心を込めて作り上げたのかということが伝わり、感動しました。午後には散歩をしながら買い物をして、ジェラートも食べました。とてもおいしくて幸せな気分になりました。ヴェネツィアという町がどれほど素敵なのか知らずに行って、想像をはるかに超える素晴らしさに、1 日中感動していました。本当に何もかもが美しく、うっとり見とれる風景ばかりでした。路上ライブのように路上でヴァイオリンを弾いている人や、野外カフェで過ごす人々の雰囲気もとてもおしゃれでした。今まで訪れた町で一番美しいと思える場所となり、このような機会があって本当によかったです。(2 年女子)

- 4 月 5 日は最後の授業の日でした。私が参加した授業の中に、Google マップを使って、イタリア国内の北部、中部、南部に別れたグループでそれぞれの美しい町や遺跡などを紹介してくれる授業があって、印象に残っています。

放課後は日本語のコースの中でおこなうミニレッスンで、用意していったビンゴや間違い探し、折り紙などをしました。ビンゴや間違い探しは楽しんでやってくれて、私の予想以上にみんなできていて驚きました。でも、改めて日本語を教える難しさも感じました。

景品のお菓子もみんな喜んでくれたし、一生懸命漢字を書いたりして、こんなに日本が好きで、日本語や日本の文化を学んでいる人がいてくれるということに感動したし、嬉しかったです。(3 年女子)